ことばのおたより

一般財団法人　三宅医学研究所
てふてふ
令和4年　7月

たくさんの「感じる」経験を

　触れた「感じ」を、見たり聞いたりして受け止めた「情報」と結びつけるために、実際に触ってみることはとても大切です。「感じかた」はひとそれぞれ。好む感触にも、不快に感じる音にも個人差があります。

　小さな子どもの中には、過剰に反応してしまう子もいて、食べ物の好き嫌いも感覚の過敏さが原因の一つとも考えられています。

　抵抗の少ないものから少しずつ、触れる・触れられるという経験を積み重ね、「感じる」経験を増やしていきましょう。

　手から入ってくる感覚入力は、情緒を安定させる意味もあります。大人でも緊張すると手を動かしたくなったり、どこかに触れたりしますよね。

　心の安定のために、水、砂、粘土などで遊ばせてあげるといいですよ。

　もう少し大きくなると、お米とぎのお手伝いも子どもは喜びそうですね。

7月は「感触あそび」

　スライムや寒天を使って、触れる遊びをします。
どんな色？どんな形？
触るとどうなる？
目と手を使って楽しみます。